

F₁ パンジー マトリックス™・シリーズ

播種から出荷まで完璧なユニフォーミティを実現した、 生産性を重視の新世代型パンジーの登場

- マトリックス™・シリーズは全色、株の本質的な構造差を少なくした新品種です。この均一性は生産そのものを容易とし、また店頭での商品訴求力を高めることにつながります
- マトリックス™・シリーズはすぐれた分枝力を特徴とし、その驚異的な分枝特性はすでにプラグの段階で確認されます。ポット上げ後は、開花前に短期間のうちに株がポットを覆い、土を完全に隠すパンジーです
- 花は大輪ですが、丈は短く徒長しにくい品種です
- 開花の同期性が高く、ほぼ 1 週間以内(25%の開花段階)で全色開花するので、全色同時に播種して、そして同じ週に出荷することができます
- マトリックス™・シリーズはもちろん秋咲性があるので、秋と春のそれぞれの出荷プログラムを組み立てられます
- イールドポテンシャル(当社の成苗率表示)90%の高品質種子を提供します

本品種の学名: *Viola x wittrockiana*
種子粒数: 750 粒/グラム

プラグ生産ステージ

プラグトレイのサイズ

できれば 288 穴でいどの容積に余裕のあるトレイを用いましょう。移植適期まででいたい 5、6 週です

培地温度

水はけがよく、無菌の、新しいピート主体の培地を用いましょう。pH を 5.4 から 5.8 に保ちます。プラグミックスは初期養分値が高いので用いけません。培地は、このステージでの節間徒長を防止するためリンをできる限り抑えます

播種

よりよい発芽の結果が得られるように、種子全体に十分な湿度を与えるため、粗めのバーミキュライトで中くらいの厚みで覆土します。発芽には 3、4 日かかります

理想的な発芽を得るために、培地は「湿潤(ウェット)」の状態を保ちます。感じとしては、培地の表面はぬれていても、上側がいくぶん水気を含んだ、トレイの底から水分が浸み出さないくらいの状態を指先で確認しましょう。温度が 21℃を超えると苗が節間徒長を起こすので注意が必要です

ステージ 2 の期間: 約 10 日
ステージ 3 の期間: 約 14 日
ステージ 4 の期間: 約 7 日

温度

発芽温度: 20℃
ステージ 2: 昼間 18 から 21℃、夜間 15℃
ステージ 3: 昼間 18℃、夜間 15℃
ステージ 4: 昼間 15℃、夜間 13℃

水やり

ステージ 3 から管理を開始し、苗が活着したら培地の水分レベルを下げるようにします。ステージ 4 では、いわゆるウェット/ドライの周期を繰り返し、過湿による苗の軟化が軟化しないように注意します

照度

発芽に際して光は不要。最高で 30,000 ルクス(3,000 f.c.)までの照度環境下で質の良い苗が作り出されます

湿度

相対湿度 95 から 97%を維持します

肥料

ステージ 3 から開始し、週に 2 回、苗生産に適した液肥を 50ppm(N)で与え、1 週間には窒素濃度を 100ppm まで増加させ、その濃度を育苗終了まで続けます。初期の EC 値は 0.5 から 0.75mmhos/cm、pH は 5.4 から 5.8 として、ステージ 2 からステージ 4 では、各々 EC 値 1.0mmhos/cm、pH は 5.6 から 5.8 とします。

また pH が 6.0 以上になるとホウ素欠乏を引き起こし、さらには生理障害のもと *Thielaviopsis sp.* による黒根病を誘発する場合があります

矮化処理剤

プラグ育苗の段階においては、A レストを 10ppm 葉面散布すると効果があります。最初の本葉が展開した時点(およそ播種後 3 週間程度)で 1 回与えれば十分効果がありますが、必要であれば、3 週に達する数日前に早めに与えることも可能です

Note: プラグ苗の移植適期を逃がさないように注意しましょう。移植が遅れると根詰まりを起こして、プラグトレイで花芽をつけてしまうことがあります

ポット上げから出荷まで コンテナサイズ

カットバックあるいは 9 から 10.5cm ポットを用います

用土

パンジーのポット上げ用の培地については、初期養分(元肥)値が重要で、その後の生育や仕上がり時の株質に大きく影響を及ぼします。値が低すぎると、株が十分にできあがる前に花が上がってしまうことがあります。そのため、用土の養分が不足と考えられる場合は、栄養生長を促すために必要な養分の確保が必要です

温度

施設栽培においては、昼間温度を 15 から 18℃、夜間温度を 10 から 13℃が維持できるように管理します

照度

補光等は特に不要です

肥料

施設栽培においては、移植後 1 週ほどたって根が活着した頃から、汎用タイプの液肥 150ppm(N)を週 1 間隔で与え始めます。露地生産の場合、必要に応じて肥料を追加することも可能です。移植後は出荷期まで、EC 値は 1.5mmhos/cm、pH は 5.6 から 5.8 を保ちます。もしも pH が 6.0 を超えるような場合は、pH レベルを適正域に戻すための方策をとりましょう

矮化処理剤

パンジーへの矮化剤の使用は、生産の時期や場所、昼夜の温度差によってその使用要件が大きく変わってきます。もし昼夜の温度差が理想的な条件内であれば(例えば、昼間温度 16 から 20℃、夜間温度 11 から 15 度程度)、移植後 1 週たってから A レスト 10 から 20ppm を 7 から 10 日間隔で 2、3 回の葉面散布で効果があります。これよりも温度の高い条件では、B ナイン 5,000ppm とサイコセル 1,000ppm のタンクミックス(あるいは B ナイン 5,000ppm とサイコセルの代わりに A レストを 5 から 10ppm で代用可)を移植後 1 週目に、上記と同回数、同間隔で葉面散布すると効果があります。

北ヨーロッパのトライアルでは、移植後 2、3 回ほど B ナインの葉面散布を 3,200ppm で行いましたが、やはり高い効果が確認されています

パンジーの生長を自然に整えるには、温度が最も重要な要因となります。春出荷用のパンジーでは、低温で育苗から生産が可能なので、矮化剤の使用はほとんど必要ありません

質の高いパンジーを生産するには、移植後 1 週間ほどハウスの外か無蓋施設のような風通しのよい、温度が低めになる場所に置いておきましょう(秋出荷の場合は遮光なども考慮)。このように工夫をして、できるだけ昼間温度 15 から 21℃、夜間温度 11 から 15℃の最適な条件を作ることのひとつの方法です。パンジーは、低温には強く、5℃くらいまで下がっても株にあまり影響はありません

栽培のスケジュール

播種から移植適期:	約 5 週
移植から出荷適期:	4 から 8 週(出荷時期により異なる)
播種から出荷適期:	9 から 13 週(出荷時期により異なる)

予想される病気や害虫

害虫:

育苗の段階では、ファンガスナッツやショーフライが現れるので駆除しましょう。一方、ポット上げ後のステージでは、アブラムシやスリップス、ハダニ、ホワイフライなどの駆除が必要です

病気:

立枯病や黒根病、ボトリティス、その他感染症等に注意が必要です

EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed™

PanAmSeed.com

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road
West Chicago, Illinois USA 60185-2698
630 231-1400
Fax: 630 231-3609

PanAmerican Seed Europe BV
Lavendelweg 10
NL-1435 EW Rijsenhout, Holland
+31 (0)297-383038
Fax: +31 (0)297-383036

®および™は、Ball Horticultural Company のアメリカ合衆国、またその他国における登録商標です。

©2005 Ball Horticultural Company Printed in USA PAS05117
Originally issued as PAS05117 in USA, and under permission translated into Japanese in 2005. Printed in Japan